

2006年のノーベル平和賞がグラミン銀行に与えられたことは、当社にとっても感慨深いものがありました。グラミン銀行のグラミンは、ベンガル語で農民、あるいは農村を意味し、最貧層に無担保で融資をします。非常に少額の貸付なので、マイクロクレジットと呼ばれ、いろいろな国で取り組まれています。

1997年、南アフリカのマイクロクレジットの現場を訪ねました。この現場は、南アフリカのWDB(Women's Development Bank)女性開発銀行のプロジェクトです。

実際にどのように資金が使われ、成果をあげているかを自分の目で確かめる事が訪問の目的です。たくさんの女性達が、歌い、踊りながら迎えてくれ、自分達の経験を語ってくれました。五人の子供と失業中の夫と暮す雑貨商の女性がWDB融資のおかげで材料から仕入れて、製作販売することで業者のマージンを圧縮し、浮いた利益を次の投資にまわせた話、離婚して、子供を育てている女性がWDBの融資を受けてミシンを買い、六ヶ月でドレスが縫えるようになった話、野菜果物の露店商の女性は、今までは余裕資金がないため、市場で小売値で買った農産物を、道端で細々と売って、その日銭で、翌日の商品を仕入れていたのが、WDBの融資のおかげで、農場から卸値で仕入れて倉庫に保管し、市場価格を見ながら放出して、値崩れを防いで安定的な収入にすることなどが出来るようになった話、トラクターなど、農機具の共同購入で生産性をあげたグループの話もありました。あるグループはWDBに融資の限度額を引き上げてほしいと要請していました。40人のメンバーのうち、20人がミシンを使えるのに、2台しかないのもっとミシンを買いたいのだそうです。限度額は、一件、6千ランド(14万4,000円)です。六千件の融資総額、二百万ランド(約7,200万円)返済率は、ほぼ100%で不良債権のほとんどない優良銀行なのです。1997年当時の日本で、不良金融機関や借り手の返済免除など、モラルハザードが論じられていた時、何とささやかな願いでしょうか。この女性達に「今、一番望んでいることは何ですか。」と尋ねたところ、「WDBがもっと他の貧しい女性達のことにも助けて欲しい。」と答えたのには深く心を打たれました。実はこのWDBの創立者は、ムベキ現南アフリカ大統領夫人でした。ムベキ夫人は、筆者が銀行員だと知ると、「こういう問題にこそ是非銀行の方の協力が欲しいのです。」と熱っぽく話され、そのことが結果的に1998年の当社の設立につながったのでした。